

[住宅課題賞] 参加大学:36大学/45学科

1. 宇都宮大学 工学部 建設学科 建築学コース
2. 神奈川大学 工学部 建築学科 デザインコース
3. 関東学院大学 工学部 建築学科 建築コース
4. 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース
5. 慶應義塾大学 総合政策学部・環境情報学部 総合政策学科・環境情報学科
6. 工学院大学 建築学部 建築学科
7. 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科
8. 工学院大学 建築学部 まちづくり学科
9. 国士舘大学 理工学部 理工学科 建築学系
10. 芝浦工業大学 工学部 建築学科
11. 首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース
12. 昭和女子大学 生活科学部 環境デザイン学科 建築コース
13. 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
14. 多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース
15. 千葉大学 工学部 都市環境システム学科
16. 千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 建築設計コース
17. 筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域
18. 東海大学 工学部 建築学科
19. 東京大学 工学部 建築学科
20. 東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科
21. 東京藝術大学 美術学部 建築科
22. 東京電機大学 未来科学部 建築学科
23. 東京都市大学 工学部 建築学科
24. 東京理科大学 工学部第一部 建築学科
25. 東京理科大学 工学部第二部 建築学科
26. 東京理科大学 理工学部 建築学科
27. 東洋大学 理工学部 建築学科
28. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース
29. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築環境デザインコース
30. 日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース
31. 日本大学 理工学部 建築学科 設計・計画コース
32. 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
33. 日本工業大学 工学部 建築学科
34. 日本工業大学 工学部 生活環境デザイン学科
35. 日本女子大学 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻
36. 文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 建築デザインコース
37. 法政大学 デザイン工学部 建築学科
38. 前橋工科大学 工学部 建築学科
39. 武蔵野大学 環境学部 環境学科 都市環境専攻
40. 武蔵野美術大学 造形学部 建築学科
41. 明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース
42. 明治大学 理工学部 建築学科
43. ものつくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース
44. 横浜国立大学 理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP
45. 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科

[カタログ]
企画・編集: 駕海浩康、梅津洋佑 / 一般社団法人 東京建築士会
デザイン・制作: 株式会社 ケンオン
発行: 一般社団法人 東京建築士会

© 一般社団法人 東京建築士会 2014

vol.14

JUTAKU KADAI 2014
RESIDENTIAL
STUDIO PROJECT
AWARD 2014

第14回

[住宅課題賞2014]

建築系大学住宅課題優秀作品展

【開場日時】

2014年11月4日(火) — 11月21日(金) 10:00~18:00

土・日・祝日休館(15日(土)は開館) / 最終日16:00まで

【会場】

ギャラリー エー クワッド

〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店 東京本店1F

<TEL>03-6660-6011 <URL><http://www.a-quad.jp/>



GALLERY A4

vol.14

JUTAKU KADAI 2014

RESIDENTIAL

STUDIO PROJECT

AWARD 2014

第14回 [住宅課題賞2014]

建築系大学住宅課題優秀作品展

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、市民の皆さまに建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エークウッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は14回目を迎えましたが、さらに参加大学が増え、本年は36大学45学科の参加・出展をいただいています。

「住宅課題賞」は、首都圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、さらにこの中から公開審査により特に優れた作品を「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆さんに、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解をより一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エークウッドをはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2014年11月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。学部生、1年～3年時の作品(作成時)とする。課題作品は、平成25年9月(前年後期)以降のものとする。出題ペーパーと学生の作品(図面及び模型)両方を展示する。

【出展規定】

図面:A1版(縦841mm ×横594mm)縦使いに統一、1枚とする。
5ミリのスチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型:縮尺は1/50 に原則統一、1点とする。大きさは、幅1,100mm ×奥行700mm の範囲内に収まるものとする。
但し、作品規模により、上記に収まるものであれば、縮尺は要相談。

【賞】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点が選ばれる。

【審査方法】

公開審査とする。

公開審査

【日時】

2014年11月15日(土) 13:00～17:00

【会場】

竹中工務店 東京本店 1F 食堂

【審査員】

審査員長:植田 実(編集者・建築評論家)

審査員:貝島 桃代(アトリエ・ワン/筑波大学准教授)

吉良 森子(アムステルダム設計事務所主宰/
神戸芸術工科大学環境建築デザイン客員教授)

島田 陽(タトアーキテクト/島田陽建築設計事務所)

谷内田 章夫(谷内田章夫/ワークショップ)

司会進行:佐々木 龍郎(佐々木設計事務所)



01 集合住宅

街中を流れる川。街中から見上げる空。街中でつながる路地。そして、街中で営まれる生活。視線は屋根を抜け空へ、屋根を滑り川へ。生活は路地に溢れ、そして街全体へ染みわたる。北関東、そして宇都宮の中心地に再び、心地良さと繋がりが見えるように設計しました。この集合住宅で、個々のプライバシーを乗り越えた関係が築かれ、それぞれの生活が染み出す賑やかな街になればいいです。



二瓶 賢人 (ニヘイ ケント) 宇都宮大学
工学部 建設学科 建築学コース / 3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:安森 亮雄、久野 靖広
指導教員名:安森 亮雄、久野 靖広



02 エッジに建つ住宅

この住宅課題は「地域との交流が行えるスペース」を設けることが必要でした。そこで、私は、日々の生活での身近な人との挨拶・会話こそが一番の地域との交流だと思いつきました。そして、敷地のエッジに人が集まりやすいような縁側を作り、ついつい腰掛けて、会話をしたくなるような空間を考えました。また、設計した住宅は、地域との距離感、家族の中での距離感を重要視して設計しました。



亀岡 貴彦 (カメオカ タカヒコ) 神奈川大学
工学部 建築学科 デザインコース / 3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山家 京子
指導教員名:福島 加津也



03 庭をもつ2世帯住宅

“土間”という空間によって生活空間と庭を繋ぎ、親世帯と子世帯を繋ぐ。それぞれの境界を土間が曖昧にするため近づきすぎず、でもお互いの存在を感じる。また土間空間は昔から台所としての機能や、電や流し場といった作業場として利用されていた。現代の住宅に土間空間を設けることによってもっと自由なアクティビティや、家族のコミュニケーションが生まれるのではないだろうか。



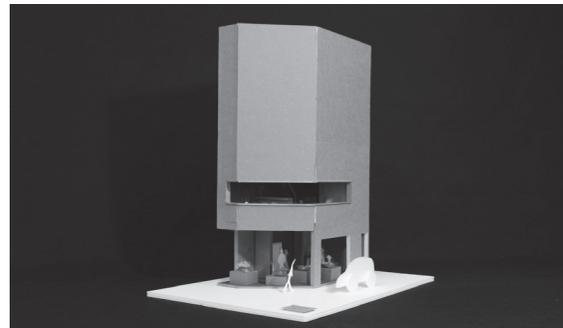
布川 真衣 (ヌノカワ マイ) 関東学院大学

工学部 建築学科 建築コース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:黒田 泰介

指導教員名:黒田 泰介、古賀 紀江、杉 千春、高橋 潤、野上 恵子



04 場の魅力を活かす

狭小住宅が設計されるとき、大開口を設けることで空間を確保する場合が多い。こうすることで視線は遠く抜け、空間を最大限広く見せることができる。しかし、私はそうすることで居住者の生活の様々な場面で豊かさが損なわれていると考えている。今回の設計では、下層の商店スペースをみちに開放し、上層の生活スペースを外部から閉ざし、これより得られる狭小住宅の豊かさを追求した。



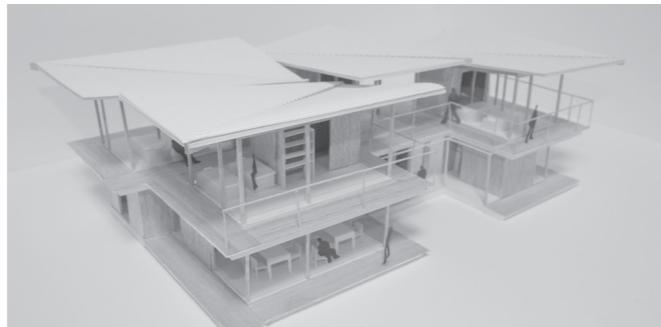
中野 日向子 (ナカノ ヒナコ) 共立女子大学

家政学部 建築・デザイン学科 建築コース / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:高橋 大輔

指導教員名:高橋 大輔



05 デザインスタジオ(住まいと環境)

大学に隣接する敷地において、農業を介して地域と関係を築いていくための施設として大学授業の一環として学生と地域住人がともに農作業だけでなく、生活をともにするための寮を設計した。様々な機能を分棟配置で多様性を生むだけでなく、それらの2層目をデッキでつなぎ、単なる農作業だけでなく人間の交流の多様性も担保している。



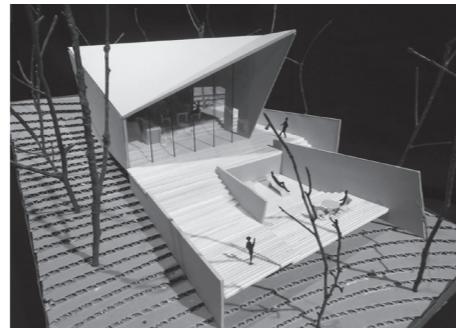
横尾 周 (ヨコオ シュウ) 慶應義塾大学

総合政策学部・環境情報学部 総合政策学科・環境情報学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:小林 博人

指導教員名:小林 博人



06 キャンパス内の森の家

敷地は15mを超えるコナラやクヌギが林立する斜面地。見上げるほどに視界は明るく、山を登るほどに景色は変化する。そこで生活しながら様々な高さで森の景色を眺め楽しめる家を目指した。生活の違いは高さで形づくられる。高さで区切られた空間は階段で穏やかに繋がりの一つの大空間になる。森の景色を切り取るために設定された壁と屋根が不定形の空間をつくり様々な居場所をつくる。



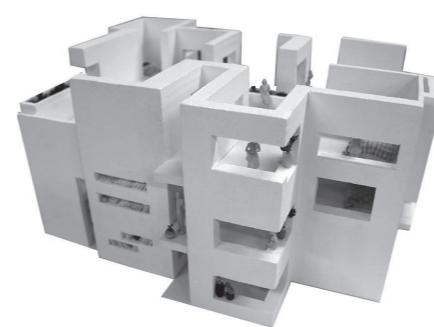
谷口 翔太 (タニグチ ショウタ) 工学院大学

建築学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年:1年 出題教員名:藤木 隆明

指導教員名:富永 祥子、寛 淳夫、大塚 篤、伊藤 潤一、稲葉 唯史、小島 真知、

佐藤 健、澤崎 宏、保 清人、堀 正人



07 都市居住(都市機能を併設させた新しい集合住宅のかたち)

現在の集合住宅は集まって住んでいるのにも関わらずコミュニティが生まれにくい。その原因は人と人の間に距離をつくり空間を分けてしまう壁なのではないか。そんな壁をみんなで共有できる壁にすることによって人々のよりどころとなることを考えた。まちとひと、ひととひと、空間と空間をつなぐ“かべ”を提案する。



小池 萌子 (コイケ モエコ) 工学院大学

建築学部 建築デザイン学科 / 4年

課題出題時学年:3年 出題教員名:木下 庸子

指導教員名:木下 庸子、西森 陸雄、金箱 温春、野澤 康、小川 真樹、沢瀬 学、

三浦 丈典、藤井 由里



08 外のある家

中庭、路地、植物などの外の要素を直接取り入れることのみが「外のある家」なのか。課題敷地周辺にある河川の中洲をみてひらめいた。家自体が自然に溶け込み、より外を強く感じる家を創ろうと。例えば水面下から風に揺れる緑を見た時人は、水面を通さない時より強くその緑を感じるのではないだろうか。そこで、光、風、水という3つの媒体を用いて、住居者と外を媒介(仲立ち)する家を考案した。



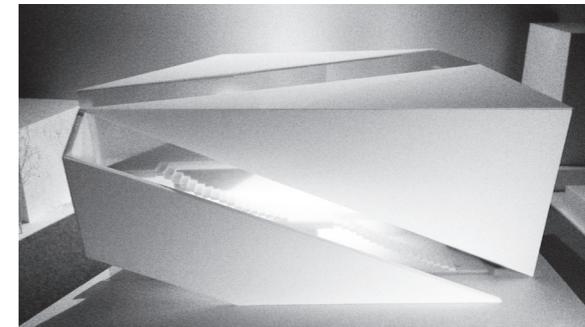
小笠原 美沙 (オガサワラ ミサ) 工学院大学

建築学部 まちづくり学科 / 2年

課題出題時学年:2年 出題教員名:富永 祥子

指導教員名:藤木 隆明、櫻原 徹、森沢 健太、伊藤 潤一、遠藤 克彦、川口 通正、

木野内剛、澤崎 宏、福山 博之、横田 歴男、金子 滋



09 アトリエのある家

アトリエと住宅、人の流れが違うモノと一緒にするにあたって、「塀」に着目して考える。塀には本来、人の侵入や見通しの妨げなどの機能がある。しかし、それは街として見た場合に死角を作り、犯罪を生んできた。そこで今回は、敷地という空間のどこに塀が必要かを考えアトリエと住宅の共存を目指し設計する。また、塀の使い方によって境界を薄め、人が集まる場所ができるように考える。



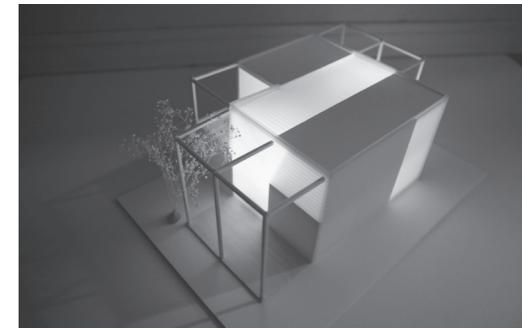
古木 祥太 (フルキ ショウタ) 国士舘大学

理工学部 理工学科 建築学系 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:南 泰裕

指導教員名:保坂 猛



10 様々な変化する生活シーンを考えた住宅

廊下はなぜ存在するのだろうか。ひっそり薄暗いその空間を見て考える。部屋と部屋の間の空間が廊下であるならば、部屋がなければ廊下は存在しない。部屋が主であり、廊下が従である。しかし、ここで廊下と部屋を同等に扱ってみる。廊下は効率や動線という言葉から解き放たれ、<廊下>として生まれ変わる。<廊下>は家を買き、人々の生活は交差する。これは始まりに過ぎない。



大塚 文音 (オオツカ アヤネ) 芝浦工業大学

工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:郷田 修身

指導教員名:小山 貴弘

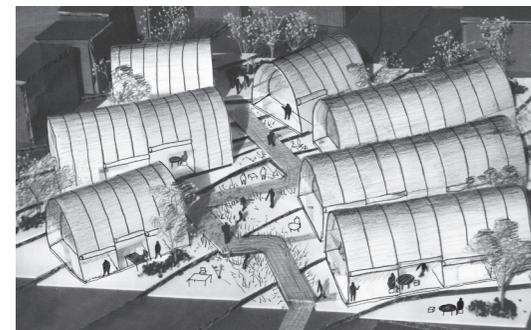


11 時間を設計する —新しい2世帯住宅を考える—

家族や地域の関わりが少なくなった今、「人と繋がる」という視点から2世帯住宅を考える。家族、そして地域、それぞれの間に多彩な庭を設ける。開かれた庭、家族だけの緑、多様な外部空間は地域に豊かさを生み、人々の集う場所となる。空間を分けながらも緑が緩衝材となり、それぞれが心地よい距離感で繋がることできる。緑はやがて成長し、誰にでも等しく時を刻む。



松本 有未子 (マツモト ユミコ) 首都大学東京
都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 一之瀬 雅之、伊藤 暁、猪熊 純、光嶋 裕介
指導教員名: 一之瀬 雅之、伊藤 暁、猪熊 純、光嶋 裕介

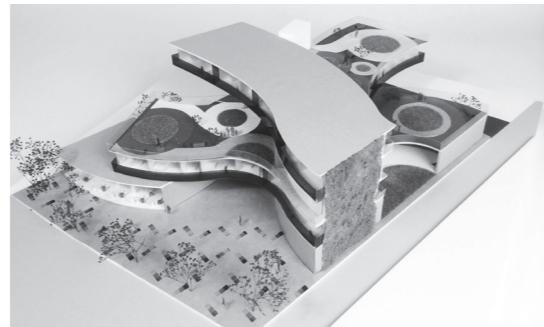


12 「〇〇に住む」 —上町・豪徳寺らしさを提案する—

ビニールハウスに着想を得て、住戸の境界を薄い膜で仕切ることにより集合住宅におけるコミュニティを再考した。開口部であり壁である薄い膜を巻き上げれば住戸相互の関係性が自由に変化する。膜による境界は居住スペースの領域を曖昧にさせ、住人同士で共有空間を形成することを促す。あたかもビニールハウスのような住戸が立ち並ぶ様は、かつてこの地にあった農村の原風景と縁を結ぶ。



堂谷 実穂 (ドウタニ ミホ) 昭和女子大学
生活科学部 環境デザイン学科 建築コース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 杉浦 久子
指導教員名: 手嶋 保



13 集合住宅計画

個人の生活で離れ勝ちな住民とのコミュニケーションを引き起こすため、ヒモで結んだような外観にみんなの庭を楽しめつつプライバシーを守っていく集合住宅をデザインした。クリエイティブな人たちが集まる代官山に位置する集合住宅としてデザイナーやアーティストたちのライフスタイルに合わせたインテリアとさらに1階は商業施設を含み、お互い交流ができるスペースも提供してある。



崔 守然 (チェ・スヨン) 女子美術大学
芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 飯村 和道
指導教員名: 飯村 和道、下田 倫子



14 風景の中の住空間 ~夫婦がくつろげる週末住宅~

東京都八王子市に設定されたこの課題の敷地には低く小さな丘がある。その上に佇む週末住宅は周囲の山々や棚田に合わせて内部に緩やかな段差を取り入れている。その段差の高さなどによって空間を様々に分け、それらの空間を大きな屋根が優しく覆い包み込む。よって壁はなく家全体が繋がっている、どこにも光や音、においなどお互いの存在を感じながらゆったりと週末を過ごすことができる。



池上 里佳子 (イケガミリカコ) 多摩美術大学
美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース / 2年
課題出題時学年: 1年
出題教員名: 田淵 諭
指導教員名: 田淵 諭、古暮 和歌子、米谷 ひろし、橋本 潤、吉村 純一、田嶋 豊



15 my life in matsudo

提案地の近くには、松戸神社がある。松戸神社では多くのイベントが行われ、そのようなときには自宅のリビングがカフェになる。訪れる人たちとイベントを共有することで、自分たち家族が楽しめ、さらに訪れる人を楽しませることもできる。また、日常では家のどこにいても安心するような暮らしを目指した。ハレの日も日常もどちらも楽しめる住まいを提案する。



覚張 郁美 (ガクハリ イクミ) 千葉大学
工学部 都市環境システム学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 森永 良丙、峯田 建、船木 幸子
指導教員名: 森永 良丙、峯田 建、船木 幸子



16 小住宅の設計

千葉の人口密集地の小公園に隣接する敷地に公園と一体化する庭、住人の生活の一部となる庭を持つ住宅を提案する。高低差によって生じる隙間によって内から内外を同じ視野で知覚し、建物を分節する通庭や隙間が生活を外へと導く。シャッターのような隙間から見える光やシークエンスは互いの存在を感じさせ、プライバシーを守りながら人と人の距離感を近くしていくことを目指した。



下川 翔平 (シモカワ ショウヘイ) 千葉工業大学
工学部 建築都市環境学科 建築設計コース / 3年
課題出題時学年: 2年 出題教員名: 片山 律
指導教員名: 石原 健也、今村 創平、遠藤 政樹、片山 律、後藤 伸一、多田 修二、千葉 貴司



17 "minimal complex" 及び "建築構法論演習"

門前道の歴史的景観を残す筑波山麓の「つくば道」沿道は、過疎化と高齢化によって空き家・空き地が増加し衰退が著しい。この計画では、改築と新築を織り交ぜながら「つくば道」の新たな住環境・地域交流施設の再建を図ると共に、沿道の景観整備と観光拠点も計画することで筑波山の観光地としての活性化を促す。多くの人々にぎわう門前道としての「つくば道」復興を目指した。



水越 俊宇 (ミズコシトシエ) 筑波大学
芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 鶴沢 隆、加藤 研
指導教員名: 鶴沢 隆、加藤 研

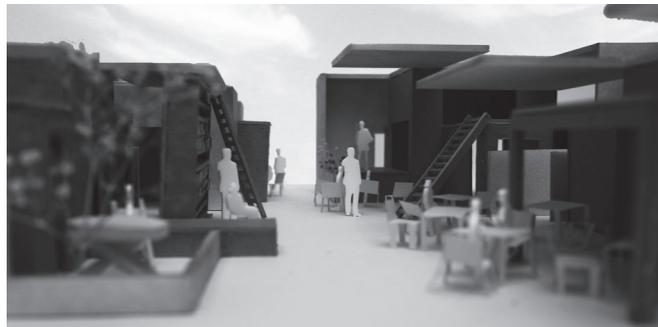


18 ウチとソトのあるイエ

「ウチの中にソトがある家」を作ろうと思いました。ソトとウチで同じ床と屋根を共有し、ソトにカーテンを付けてウチとソトの認識を曖昧にすると、「ウチのようなウチ」「ソトのようなウチ」「ウチのようなソト」「ソトのようなソト」が生まれ、様々な住まい方ができるようになります。そんな風景をフワッと空中に浮かべました。



本井 加奈子 (モトイ カナコ) 東海大学
工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年 出題教員名: 吉松 秀樹
指導教員名: 吉松 秀樹、山崎 俊裕、渡辺 研司、古見 演良、更田 邦彦、木島 千嘉、岸本 和彦、納谷 新、河内 一泰、井上 玄



19 福島県双葉町町外拠点の設計(町が町であり続けるための空間的な仕掛け)

東日本大震災による原発事故のため帰還困難となった双葉町の町外拠点の設計。町が町であり続けるために、この町外拠点以外の双葉町の方々が訪れることのできるリビングのような空間を住民が主体的につくっていきけるような仕掛けを考えた。小道に並べられたコンクリートのスケルトンに、住民はボックス状の木の部屋やヴォイドをアレンジして思い思いの空間を小道にあふれさせる。



出射 有紀子 (イテイ ユキコ) 東京大学

工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:西出 和彦、大月 敏雄

指導教員名:西出 和彦、大月 敏雄、佐藤 淳、木内 俊彦、原田 真宏、
末光 弘和、鍋島 千恵、西田 司



21 ○○な家

Roof is Room.

屋根の上が住むひとのプライベートスペースとなるような住宅を提案する。隣地住宅との関係から屋根の位置を決め、屋根自体がふわりと浮いているような構成にした。地面のレベルでは屋根の下に木陰のような開かれた場所を提供する。屋外空間を生活の中心とした、新しい住まいの在り方を提案する。



阿部 春香 (アベハルカ) 東京藝術大学

美術学部 建築科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:トム・ヘネガン、河内 一泰、田村 裕希、金 泰範

指導教員名:トム・ヘネガン、河内 一泰、田村 裕希、金 泰範



20 ○○が集まって棲む家+□□

ボルダリングの愛好者ボルダラーが集まって住むシェアハウスと、一般の人でも気軽にボルダリングを経験できるシェアハウスを提案する。ファサードは壁をよじ登るシーンが通りからみえるよう全面ガラス張りにし、ボルダリングの壁に合わせてオーバーハングしている。メゾネット形式の住居スペースは、V字型に切り取られた中庭の奥にあり、吹き抜けの壁でもボルダリングを楽しむことができる。



武村 香穂里 (タケムラカオリ) 東京家政学院大学

現代生活学部 生活デザイン学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:瀬川 康秀

指導教員名:瀬川 康秀、原口 秀昭、前鶴 謙二、杉本 茂



22 集合住宅の設計

青山・表参道から一本入った静かな団地に斜めの壁で構成された集合住宅を計画する。ここは、人を呼ぶ者達が棲む集合住宅。住人たちが発信する様々な出来事は多くの人を斜壁のもとへと呼び寄せ。呼ぶ住人たちと呼ばれた人々、地域住人たちが集い楽しむ、新しいコミュニティ SITEが青山に生まれる。



白石 矩子 (シライシノリコ) 東京電機大学

未来科学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:山田 あすか

指導教員名:山田 あすか、土田 寛、河本 光正、佐藤 裕、鈴木 弘樹、萬代 恭博



23 I am home! 教会とhomelessのためのシェルター

プロテスタント教会とその牧師が運営するホームレス社会復帰支援施設。支援施設には5人で1つ共有の居間を持つユニットが3つあり、15人がここで生活をする。壁でこのユニットと教会を包み込み、切れ目を入れることにより内部に優しく光がさす。この壁により、代官山の大通りには開けすぎない、社会復帰を目指す人々と教会のための落ち着いた空間を作った。



仁井 のはら (ニイ ノハラ) 東京都市大学

工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:手塚 貴晴

指導教員名:松井 亮



24 神楽坂に住む

都心の迷路、神楽坂の路地街の中に立つ住宅である。敷地の一方は路地の行き止まりに面し、もう一方は風情のある坂道に接している。この中にいくつかの建物を林立させ、風や光を取り込み、巡る楽しみや四季を感じる仕掛けを考えた。それは家族の独立した関係を成り立たせ、路地を行交う人々を拒絶することなく立ち現れ、町を見通す「回遊楼」として、都市の密集地に住むための装置となる。



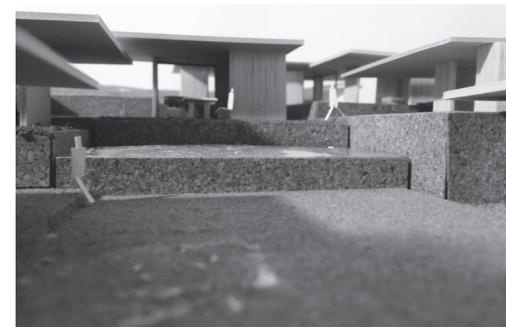
劉 劍橋 (リュウケンキョウ) 東京理科大学

工学部第一部 建築学科 / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:熊谷 亮平、石橋 敦之、加茂 紀和子、藤田 英男、船木 幸子、峯田 建

指導教員名:加茂 紀和子



25 森の大きな家

一般的に住宅の内部と外部の境界線は建築自体が生み出している。この計画では土地の起伏とともに計画されたプレートに機能を割り当てている。それにより生活は外部へと展開する。全てのプレート同士は一連の生活行為や屋根、森の木々への眺望によって繋がれていく。建築の物理的な境界を越えて豊かなのびのびとした生活自体がこの住宅を大きくしているのである。



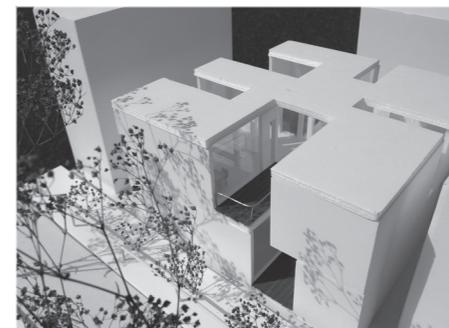
鈴木 智子 (スズキトモコ) 東京理科大学

工学部第二部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:山名 善之、手嶋 保、広谷 純弘、古見 演良、保坂 猛、宮原 亮、呉 鴻逸

指導教員名:保坂 猛



26 三宿の住宅

この閑静な敷地内にある、道路と緑道に挟まれた住宅を設計する上で、自然の恵みと家族の賑わいを住宅に取り込めないだろうか、と考えた。そこで本来部屋を区切るために用いられる「壁」の代わりにガラスのみで区切った「外部空間」を置くことで、住宅内に外部の存在と他の部屋の生活感を流れ込ませた。これにより外部と内部の共存した空間を創り上げ、家族のつながりを生み出した。



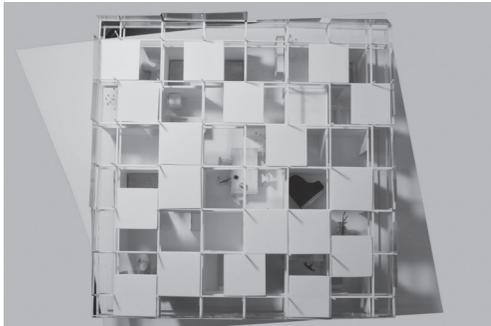
稲葉 佳帆 (イナバカホ) 東京理科大学

理工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:山名 善之

指導教員名:山名 善之



27 家族をリスタートする住宅

壁、それは人と人を分けるもの。
カベ、それは人と人をつなげるもの。
カベ、それは人と人がうごかすもの。
カベ、それは、私たち家族をつなぐもの。
可動壁による新しい家族像に対する新しい住宅の提案。



小林 周平 (コバヤシ シュウヘイ) 東洋大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:篠崎 正彦

指導教員名:津野 恵美子



28 集合住宅の設計

現代の集合住宅で住人間のコミュニケーションを深める空間は存在するが、そこに人々は自然に集まらない。そこで外部の人も呼び込み、空間に賑わいを持たせる事で自然と交流が生まれる。敷地に対し、壁を立て人が通る流れを作り、ハの字にする事で空間に変化を持たせ通りがかりの人々を引き込める空間を作った。生活面では空間が固定的にならないシーンの連続性をイメージし設計した。



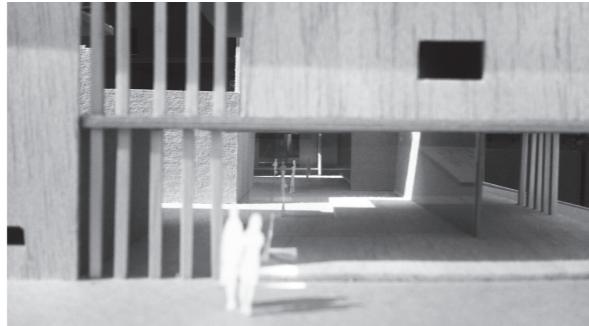
今 夏紀 (コン ナツキ) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築総合コース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:小川 博央

指導教員名:小川 博央



29 集まって住もう

人が集まるだけでは「街の活力」は、生まれない。ほんの十数年前までは、ご近所付き合いが「街の活力」を生む住宅地は多く存在していたように思う。「谷根千」と上野の境には、人の流れが集中する場所があると分かった。その場所が、周辺で生活を営む人達のいわば継手となり「街の活力」を生む。地域再生を担った新しい集合住宅のあり方を提案する。



山下 大樹 (ヤマシタ タイキ) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築環境デザインコース / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:木下 道郎、篠崎 健一

指導教員名:木下 道郎、篠崎 健一



30 ○○の住宅

住む人がそれぞれ存在を感じながら過ごせるそんな住宅をめざした。大きさの異なる3つの吹き抜けを置き重ねる。よって吹き抜け空間の役割それぞれが異なりながらも「つながり」のある空間ができる。またどの部屋にいても吹き抜け空間を介して人と人、屋内と屋外を「つなぐ」。3つの役割をもつ吹き抜け空間を通じてつながりのある住宅を提案する。



杉山 未沙 (スギヤマ ミサ) 日本大学

生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:渡辺 康、中山 繁信

指導教員名:渡辺 康、中山 繁信



31 集合住宅

集まって暮らすということの意味を考えた。隣人との関係性が希少なのが集合住宅の現状である。それは今の集合住宅の玄関や廊下が動線としての機能を満たすことしか考えられておらず、狭く、薄暗い、居心地の悪い空間になっているからである。そこで集合住宅内に人々のとどまる空間を挿入することで人々がそこに集まり、出会い、新しいコミュニティが生まれるのではないかと考えた。

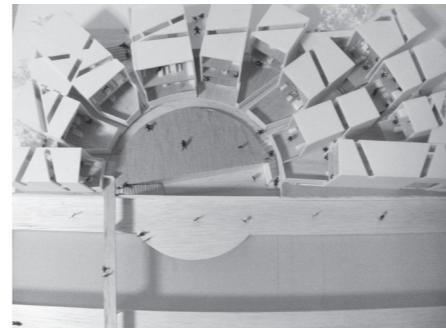


猪野 恵梨菜 (イノ エリナ) 日本大学

理工学部 建築学科 設計・計画コース / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:佐藤 光彦、古澤 大輔、本杉 省三、山中 新太郎、井手 孝太郎、大藪 元宏、河内 一泰、佐藤 文、関本 竜太、鍋島 千恵、納谷 学、野島 秀仁、福山 博之、本間 至、吉田 明弘、若松 均 指導教員名:佐藤 光彦



32 北十間川の集合住宅 ～町内会館のある水辺の集休体～

この集合住宅は繋がりを意識することができる空間の一つのかたちとして表現した。戦後の東京は急速な開発による弊害によって「水」「音」「空」を失った。その結果、住宅も閉ざされた空間となり、人々の繋がりが弱くなった。繋がりの大切さが再認識されている今日において、「水」「音」「空」へ開かれた空間をきっかけとして、住人たちの繋がりを強いものにすることができると考えた。



重田 秀之 (シゲタ ヒデオキ) 日本大学

理工学部 海洋建築工学科 / 3年

課題出題時学年:2年 出題教員名:矢野 一志、松井 正澄

指導教員名:畔柳 昭雄、矢野 一志、前鶴 謙二、木内 厚子、榎本 弘之、松井 正澄、長井 義紀、水本 光



33 日工大学生寮

学生同士が住宅街に建つ寮の中で充実した生活が過ごせる学生寮を設計した。寮の空間構成は、学生の活動範囲によって大小様々な規模に分けられている。個人の空間はこじんまりと佇み、ルームメイトや隣室の学生とは、少し大きめの空間で活動する。また、学生全員が活動できる大きな空間も設けた。学生の人数や活動目的によって緩やかに変化する空間は、充実した楽しさのある学生寮となる。



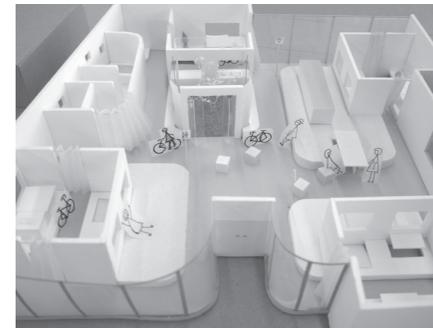
吉田 哲也 (ヨシダ テツヤ) 日本工業大学

工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:武田 光史、久野 靖広

指導教員名:武田 光史、久野 靖広



34 シェアハウスの設計

4人の自転車好きが集まって暮らすシェアハウスです。この家では土間状の道が縦横に編まれ、自転車が家の中を行き来し、外へと通り抜けていきます。これらの道は個人のスペースも横断し、道どうしが交差する中で浮かび上がった空間は共有の場となり、個人スペースと常に隣り合います。生活の中に自転車を取り込み、内外の場所どうしの関係がつながっていくようなシェアハウスの提案です。



吉村 菜摘 (ヨシムラ ナツミ) 日本工業大学

工学部 生活環境デザイン学科 / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:足立 真、白子 秀隆

指導教員名:足立 真、白子 秀隆



35 21人のための家、あるいは集合住宅

建物群とその余白である路地空間に、グリッド状に「仕切り」の壁を差し込む。壁は、居室の領域を分けつつ、住人を繋げる「場」をつくる。壁で囲われた空間は内外が曖昧な空間となり、また、壁と隣棟間隔との関係によって、様々な性格の空間が現れる。タテに伸びる棟に、新しいヨコの繋がり生まれる。仕切り壁は、個と共、内と外を融合させ、21人のための「立体的な場」をつくりだす。



大西 真由 (オオニシマユ) 日本女子大学
家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 宮 晶子、片山 伸也、寶神 尚史、東 利恵、植木 建一、渡辺 真弓
指導教員名: 宮 晶子、片山 伸也、寶神 尚史、東 利恵、植木 建一、渡辺 真弓

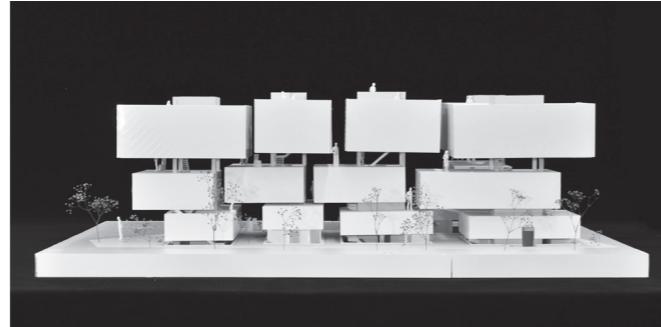


36 離れのある三家族の住まい

パズルのように結合する家
それぞれの家が結合するように、家族も助け合いながら暮らせる家。



佐藤 麻衣 (サトウマイ) 文化学園大学
造形学部 建築・インテリア学科 建築デザインコース / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 井上 瑠子、渡邊 裕子
指導教員名: 井上 瑠子、渡邊 裕子



37 未完の住処

住宅とは、都市と対峙する個の意識を確立し我に返る場である。つながりの場と個の場の中間層に「Reset空間」なるものを設けた。Reset空間は多様なつながり、しがらみから一度解き放ち、気持ちの転換点となる。Reset空間は人の心により、多様に役割を変え、あらゆる可能性を生む。決まりきった場でなく、時、環境、心情などにより意味づけの変わる未完の場(Reset空間)によって支配された住処である。



山岸 龍弘 (ヤマギシタツヒロ) 法政大学
デザイン工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 渡辺 真理、下吹越 武人、鍋島 千恵、三浦 文典
指導教員名: 下吹越 武人



38 まちなかにある集合住宅

小さなスケールが混沌とする前橋中心市街地。ここに40世帯が住まう集合住宅を提案する。40世帯という巨大な共生の仕方ではなく、小さな3~4世帯が共有する「ハコニワ」を点在させ繋げていく事で豊かな関係性を生む。ハコニワと住戸が互いに干渉し、異なる段差、素材、グリッドにより多様な居場所を作る。共有部と私有部が互いに影響し合い、自分とも他人とも関わりながら住む住宅。



松本 寛司 (マツモトカンジ) 前橋工科大学
工学部 建築学科 / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 石田 敏明、松井 淳、長尾 亜子
指導教員名: 石田 敏明、松井 淳、長尾 亜子

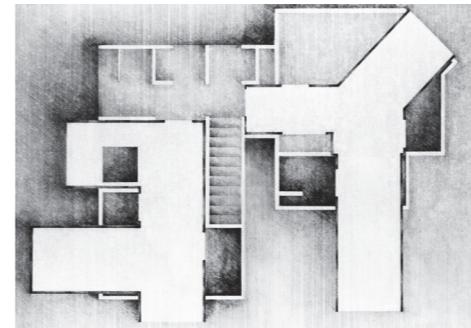


39 働きながら住む10世帯の空間

シェアタウン
春麗らかな休日、いつもより遅く起きたYはXに洗濯を頼みKのダイニングでランチを済ませた後、Oの本屋で楽しみにしていた新刊を手に入れた。すると、枝分かれする空間の先から珈琲の香りに誘われ、そのままAの珈琲店で本を広げて寛ぐ。午後はそのまま過ごし、夜には自分のミニシアターに住人や団地の人を招いて映画鑑賞を楽しみ、映画談議にも花を咲かせた。



菊地 晴香 (キクチハルカ) 武蔵野大学
環境学部 環境学科 都市環境専攻 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 伊藤 泰彦、水谷 俊博、大塚 聡
指導教員名: 伊藤 泰彦、水谷 俊博、大塚 聡



40 場の記憶(既存建物に住宅+αの新しい可能性を提案する)

家は、その場所で生きた証として、傷や汚れ等、住んでいた人と共に、多くの「場の記憶」を刻んでいる。本設計では、リノベーションであるが、壁の色を塗り替えたり、床を張り替えたりするのではなく、記憶の集積を保ちながら、家の外形を崩さずに、継承する方法を提案する。



池川 健太 (イケガワケンタ) 武蔵野美術大学
造形学部 建築学科 / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 布施 茂
指導教員名: 布施 茂、青木 弘司



41 今日的な共用住宅(シェアハウス)

母子家庭が抱える所得の低さや子供の犯罪率。この問題を解決するため、母子家庭と老夫婦世帯の共同住宅を提案した。リビングルームを従来の南向きではなく、広場に囲むように配置することで、住民同士のつながりを強め、広場に活気を生む。気軽に子供を預けることができる母親に時間の余裕を、高齢者との交流で子供に豊かな精神を、老夫婦には社会的な役割を与える。



立原 磨乃 (タチハラマノ) 明海大学
不動産学部 不動産学科 デザインコース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 鈴木 陽子、塚原 光顕
指導教員名: 鈴木 陽子、塚原 光顕



42 緑道沿いの集合住宅

この梅ヶ丘の地に由来した求められる集合住宅を、住人達の誇りである「羽根木公園」にて生じる諸要素から導いた。メゾネット住戸をずらしながら積層させ、内側を住民が趣味を楽しむスペースとすることで彼らが過ごす様子が風景となり、社会性がこの集合住宅からにじみ出ていく。人々を包み込み気軽に交流できるような、活動の風景が何気なく垣間見える居心地の良い場所を提案する。



中島 健 (ナカジマケン) 明治大学
理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 大河内 学
指導教員名: 新開 謙一郎

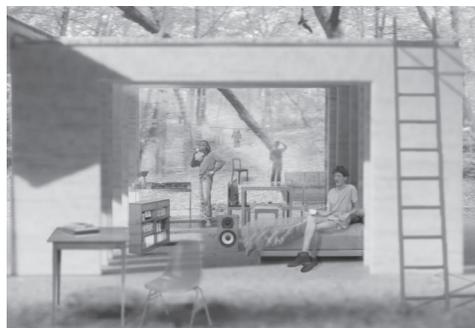


43 わたしの考えるシェアハウス

敷地は大きな通りから少しはずれた住宅地である。そこに自分のアートを発信する人が集まるシェアハウスを考えた。周辺環境を見ると、コミュニティが乏しいように思われ、そこに着目した。ここでは、周辺住民が世に出る前の「アートの原石」を、近い距離感で鑑賞できるように考えた。コミュニティの場とプライベートの場及び創作活動の場が分断することなく、緩やかに繋がるように計画した。



高橋 和誠 (タカハシ カズマサ) ものつくり大学
技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 大島 博明
指導教員名: 大島 博明

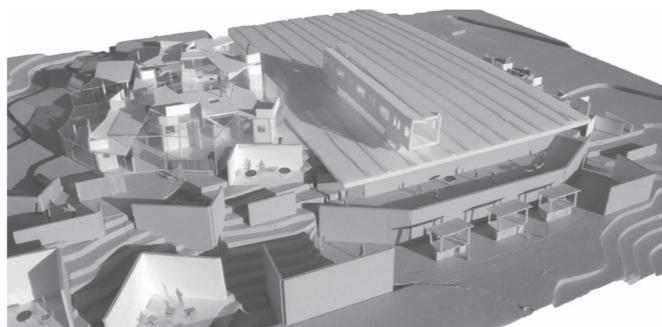


44 自然のなかの居住単位

家は食事や料理、読書、会話など、様々なアクティビティが集まる、暮らしの場である。それらは目的ごとにはっきりと区切られるのではなく、もっと相互に関連し合いながらかたづけられている。暮らしの様々な場面がより自由に展開し、また敷地の豊かな外部環境と関わりながら変化していく、小さな居住単位を目指した。



栗原 一樹 (クリハラ カズキ) 横浜国立大学
理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 北山 恒
指導教員名: 藤原 徹平、三浦 丈典、保坂 猛、中山 英之、仲 俊治、平井 政俊



45 早稲田に寄与するキャンパスと住まい —Activate Waseda—

早稲田の地域は、南北に走る鉄道や大通り、大通り沿いの高層ビルなどの「堅い堀」の存在によって仕切られ、隔てられている。しかし、それらの「堅い堀」に囲まれた住宅街にある堀は、人々の生活がにじみ出た「柔い堀」であった。「堅い堀」として地域を分断している鉄路に隣接する計画敷地に、人々の活動や生活を持ち込むことで、「堅い堀」を「柔い堀」へとすることを目指した。



浦江 彩子 (ウラエ アヤコ) 早稲田大学
理工学術院 創造理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名 / 指導教員名: 石山 修武、中川 武、入江 正之、渡辺 仁史、佐藤 滋、古谷 誠章、後藤 春彦、有賀 隆、中谷 礼仁、阿部 俊彦、小岩 正樹、渡邊 大志、小林 恵吾

主催: (一社) 東京建築士会
後援: (公社) 日本建築士会連合会
(一社) 東京都建築士事務所協会
(一社) 日本建築学会 関東支部
(公社) 日本建築家協会 関東甲信越支部
(株) 新建築社
日経アーキテクチュア

特別協賛: (株) 総合資格
協力: (公財) ギャラリー ユー クワッド

一般社団法人 東京建築士会
〒104-6204 中央区晴海1-8-12
オフィスタワー Z 棟4F (晴海トリトンスクエア内)
[TEL] 03-3536-7711 [FAX] 03-3536-7712
[E-mail] info@tokyokenchikushikai.or.jp
[URL] http://www.tokyokenchikushikai.or.jp

平成25年度

1級建築士 卒業学校別実績

下記学校卒業生合格者の 下記学校卒業生合格者 総合資格学院 現役利用率

6割以上が 総合資格学院の 現役受講生!

他講習
利用者
+
独学者
総合資格学院
現役
受講生

合格者2,143名中、総合資格学院現役受講生1,347名

[平成25年度 1級建築士設計製図試験 卒業生合格者20名以上の全学校一覧]											
日本大学	卒業合格者212	総合資格学院 利用者数 128	神戸大学	卒業合格者 47	総合資格学院 利用者数 32	横浜国立大学	卒業合格者 35	総合資格学院 利用者数 20	新潟大学	卒業合格者 27	総合資格学院 利用者数 14
東京理科大学	卒業合格者 130	総合資格学院 利用者数 91	千葉大学	卒業合格者 45	総合資格学院 利用者数 24	名古屋工業大学	卒業合格者 33	総合資格学院 利用者数 24	立命館大学	卒業合格者 27	総合資格学院 利用者数 19
工学院大学	卒業合格者 102	総合資格学院 利用者数 58	関西大学	卒業合格者 45	総合資格学院 利用者数 31	千葉工業大学	卒業合格者 33	総合資格学院 利用者数 24	日本工業大学	卒業合格者 26	総合資格学院 利用者数 16
芝浦工業大学	卒業合格者 96	総合資格学院 利用者数 67	広島大学	卒業合格者 44	総合資格学院 利用者数 27	熊本大学	卒業合格者 33	総合資格学院 利用者数 20	鹿児島大学	卒業合格者 25	総合資格学院 利用者数 15
近畿大学	卒業合格者 90	総合資格学院 利用者数 47	九州大学	卒業合格者 40	総合資格学院 利用者数 24	広島工業大学	卒業合格者 33	総合資格学院 利用者数 27	関東学院大学	卒業合格者 24	総合資格学院 利用者数 14
早稲田大学	卒業合格者 62	総合資格学院 利用者数 41	京都大学	卒業合格者 39	総合資格学院 利用者数 22	名城大学	卒業合格者 32	総合資格学院 利用者数 22	名古屋大学	卒業合格者 23	総合資格学院 利用者数 13
東海大学	卒業合格者 60	総合資格学院 利用者数 33	東京大学	卒業合格者 38	総合資格学院 利用者数 18	東洋大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 24	宇都宮大学	卒業合格者 23	総合資格学院 利用者数 17
明治大学	卒業合格者 57	総合資格学院 利用者数 41	東京電機大学	卒業合格者 37	総合資格学院 利用者数 27	愛知工業大学	卒業合格者 29	総合資格学院 利用者数 22	前橋工科大学	卒業合格者 23	総合資格学院 利用者数 16
法政大学	卒業合格者 55	総合資格学院 利用者数 34	東京工業大学	卒業合格者 36	総合資格学院 利用者数 23	東北大学	卒業合格者 29	総合資格学院 利用者数 16	日本女子大学	卒業合格者 21	総合資格学院 利用者数 15
中央工学校	卒業合格者 53	総合資格学院 利用者数 29	神奈川大学	卒業合格者 36	総合資格学院 利用者数 24	大阪大学	卒業合格者 29	総合資格学院 利用者数 18	豊橋技術科学大学	卒業合格者 21	総合資格学院 利用者数 16
京工繊織大学	卒業合格者 49	総合資格学院 利用者数 35	東京都立大学	卒業合格者 36	総合資格学院 利用者数 23	首都大学東京	卒業合格者 28	総合資格学院 利用者数 15	福井大学	卒業合格者 20	総合資格学院 利用者数 8
大阪工業大学	卒業合格者 48	総合資格学院 利用者数 23	金沢工業大学	卒業合格者 35	総合資格学院 利用者数 19	大阪市立大学	卒業合格者 27	総合資格学院 利用者数 18	室蘭工業大学	卒業合格者 20	総合資格学院 利用者数 13

※卒業学校別合格者数は、試験元である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。

建築士を1回で取得するなら総合資格学院

★1級建築士は総合資格学院で
平成25年度 1級建築士 設計製図試験
[全国]学科・製図ストレート合格者占有率
全国ストレート合格者1,714名中 / 1,086名 <平成25年12月19日現在>

63.4%

★2級建築士も総合資格学院で
平成25年度 2級建築士 設計製図試験
[総合資格学院教室開講都道府県]ストレート合格者 占有率
総合資格学院教室開講都道府県ストレート合格者2,999名中 / 1,363名 <平成25年12月5日現在>

45.4%

※学科・製図ストレート合格者とは、平成25年度建築士学科試験に合格し、平成25年度建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。※全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表の受験番号より算出。※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。



総合資格学院

開講講座

法定講習

1級・2級建築士 / 1級・2級建築施工管理技士 / 1級・2級土木施工管理技士 / 構造設計1級建築士 / 宅 建 / インテリアコーディネーター

1級・2級建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習